

福島県立安積高等学校

第129期生卒業証書授与式 式辞

日 時 平成28年3月1日（火）10：00～

場 所 福島県立安積高等学校第一体育館

式 辞

（春めく陽射しが学舎に降り注ぐようになり、）ここ安積野の大地にも少しずつ躍動の気が満ちてきた今日の佳き日に、県議会議員代理者であります県議会議員 山田平四郎様を始め、御臨席いただきました御来賓の皆様方に、卒業生の前途を祝福していただき、第129期生卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより、職員・生徒一同、この上なき喜びと感じており、深く感謝申し上げます。

保護者の皆様には、卒業式に臨むお子様の晴れ姿を御覧になり、お喜びもさぞかしのことと、心からお祝い申し上げます。また、これまで本校教育の推進に、御協力、御支援を賜りましたことに改めて感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとう。皆さんは、3年間に亘る安積での学びの時を過ごし、栄えある安積の129回目の卒業生として巣立つことになりましたが、皆さんが飛び込もうとしている社会は、東日本大震災後の厳しい社会です。

おお5年前の3月11日、皆さんが中学校を卒業する先輩達を送り出したその日に発生した大地震・大津波と、それに続く東京電力福島第一原子力発電所の事故は、多くの日本人の価値観を変えるほどの大変な出来事でした。事故発生当時とその後の事情については、皆さんそれぞれ異なっていると思いますが、大震災は皆さんの高校生活に何らかの影響を及ぼしてきたと考えられます。

あと10日で丸5年が経過しようとする中、大震災の直接の影響は、少しずつ薄くなってきたようにも思えますが、復旧が進んだ部分もある一方、未だに農産物などの風評被害に苦しみ、福島県は真の復興に動き出しているとは言えない厳しい状況が続いています。大震災以降、「ふくしまのために何かをしたい、ふくしまの復興に自分の学びを活かしたい。」このように考える高校生が増えています。勿論、世界へ飛躍しようとしている生徒も大勢いるわけですが、その場合でも、「3.11以降のふくしま」を心にとめ、決して風化させることなく、できれば、ここ福島の地にしっかりと足をつけて活躍してほしいと願っています。

卒業生の皆さんは、安積高校創立129年目に入学、同期生と共に安積の時間を刻み、昨年度、130周年という大きな節目の年に、中堅学年の2年生として立ち会うことができました。この安積で、場所・時間や言葉・記憶を共にし、勉学に励み、部活動で仲間の大切さを実感し、紫旗祭で級友との絆を強くして、「安積」という学校文化を3年間共有してきました。正に、安積の誇り・プライドを身につけたのだと私は考えます。

更に言うならば、安積の精神である「開拓者精神」「質実剛健」「文武両道」を胸に刻み、安積高校という特別な垣根の中で、仲間と共に時間を過ごしていく内に、他の高校では見られない「自主自律」のスピリッツをベースにした発酵現象が起こり、自分にも先生にも正確には表現できない何か不思議なものが、生涯効き目が続く安積ブランドの酵素のようなものが安高生の中に醸し出されたのではないかと私は思います。それが端的に表れたのが、今年度から東京大学と京都大学が初めて導入した推薦入試において、県内で唯一、合格者を1名ずつ出して、パイオニアたる安積ブランドを全国に発信し、後輩たちに大きな刺激を与えたことだと思います。

皆さんは、卒業後も更に多くの人々と出会い、関わりながら生きていくことになります。どうか、奇跡としか言いようがない出会い・巡り会いを大切に、志を高く掲げるとともに、常に謙虚で誠実であることを心がけて歩んでください。開拓者精神と自主自律の安積スピリッツを持って進んでいけば、どんなに高い壁が目の前に立ちふさがったとしても乗り越えていくことができるはずです。

学校に残る私たちは、安高生に相応しいのは、安高生「であること」ではなく、真の安高生になるために絶えず何かを「すること」なのだ、ということを経験し、安積の良き校風と伝統をさらに揺るぎないものとし、ますます地域に信頼され、「七州の覇者」という名に相応しい安積高校にするために、日々励んでいくことを決意して、皆さんを笑顔で送り出したいと思います。

ところで、私は88期生として安積で過ごし、その後、国語教師として昭和61年からの11年間、母校の教壇に立ちました。そして、不思議な縁に導かれ、私にとって3度目の安積に着任したのが129期生の入学した3年前でしたから、私は皆さんと共に3年間で過ごしたことになります、その意味で私にとっても今年の卒業式は非常に感慨深いものがあります。

入学以来、私は高い志を抱く皆さんに、多くの先人たちや私の言葉を紹介してきました。皆さんに、入学当初から繰り返してきた言葉を、もう一度贈りたいと思います。

Concentration, Continuation & Completion.

集中して、継続し、完成へ、そして更なる完成へ、この三つのCは、大学生になっても、社会人になっても、一生涯心がけるべき大切なことであり、集中して、根気よく繰り返すこと、そして「完成」というのはあくまでもその段階における完成であり、その段階に安住するのではなく、「更なる完成」を目指して生涯努力を続けることが、人間の人間たる証なのだと考えます。

終わりに、皆さんの前途洋々たる未来を祝し、皆さんが、安積の誇りと、棒の如き一本筋の通った信念を胸に秘めて、自分の人生を切り拓いて大きな足跡を残し、皆さんそれぞれにとっての「覇権の剣」をしっかりと握ることができることを祈念して式辞といたします。

平成28年3月1日

福島県立安積高等学校長 久保田範夫